

吉見町

～吉見町むし歯予防推進事業（^{よいは}〇8の会）～

(1) 吉見町の概要

(ア) 吉見町の基本情報

吉見町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、南部は川島町、西部は東松山市、東部は鴻巣市と北本市、北部は熊谷市に接し、都心から 50 km 圏内にある。面積は 38.63 km²、中央部を東西に通る主要地方道東松山鴻巣線は、国道 407 号と国道 17 号を結ぶ幹線道路になっている。荒川、市野川に囲まれた肥沃な土地での稲作、いちご栽培等の農業、大規模工場（三国コカコーラ、東洋製罐、シチズン、自動車部品カルソニックカンセイ等）が盛んである。

また、西部の丘陵地一帯は県立比企丘陵自然公園に指定されており、吉見百穴や八丁湖周辺に点在する黒岩横穴墓群などの古墳時代を代表する史跡や松山城跡など数多くの文化財が残されている。

本町の人口は、平成 10 年前後には比較的安定した増加傾向にあり、平成 14 年には 22,855 人となりました。しかし、その後出生数の減少が始まり、近年では転入者の減少と転出者の増加により人口は減少傾向が続いている。

① 面積	38.63km ²
② 人口	21,275 人
③ ②のうち 65 歳以上人口（再掲） ※【 】内は高齢化率	4,638 人 【21.8%】

（平成 24 年 1 月 1 日現在。町（丁）字別人口調査）

(イ) 人口分布概要と見込み

吉見町では、現在高齢化率は、県平均と比較してやや高く、65 歳以上の高齢者は 5 人に 1 人程度であり、高齢の夫婦世帯及び一人暮らしの高齢者は急速に増加している。

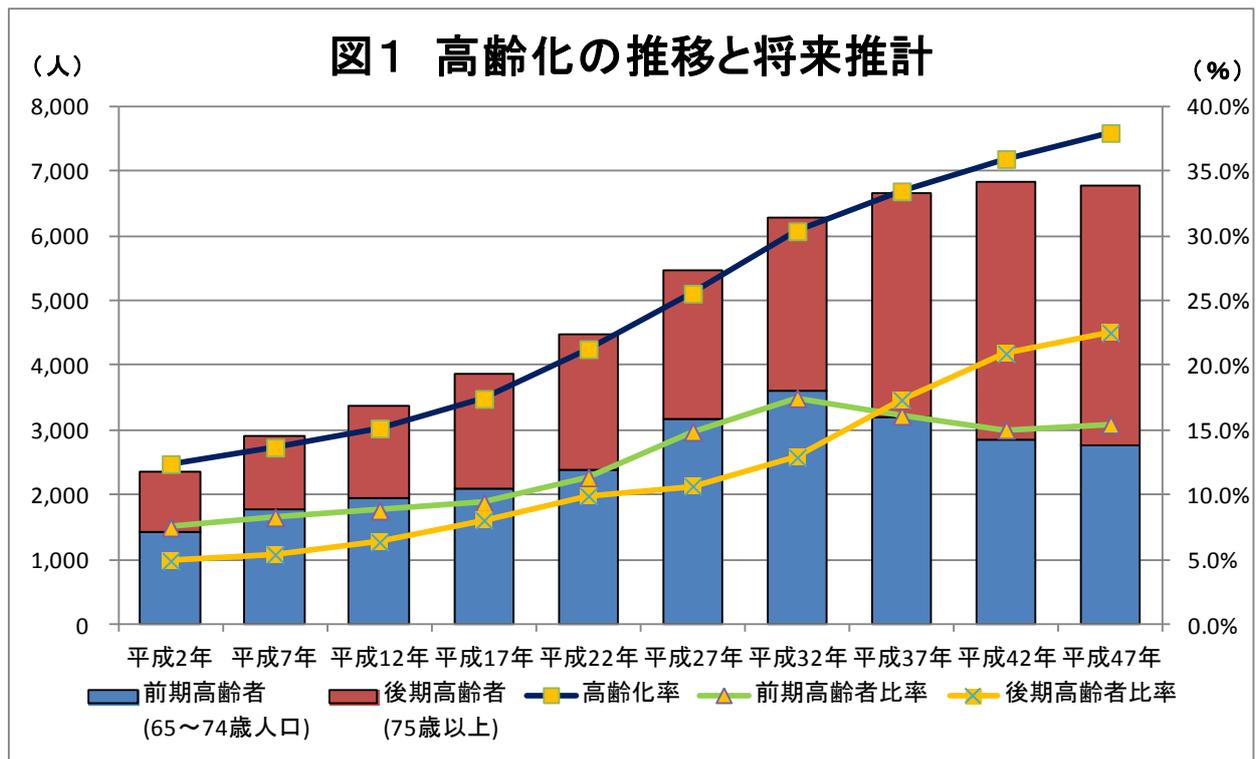
表1 高齢化の推移と将来推計人口

(人)

年	国勢調査人口					将来推計人口				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総人口	18,956	21,371	22,246	22,217	21,079	21,370	20,694	19,896	18,972	17,874
前期高齢者 (65～74歳人口)	1,419	1,767	1,956	2,085	2,392	3,180	3,615	3,206	2,853	2,760
後期高齢者 (75歳以上)	930	1,153	1,413	1,786	2,090	2,281	2,670	3,449	3,967	4,025
高齢化率	12.4%	13.7%	15.1%	17.4%	21.3%	25.6%	30.4%	33.4%	35.9%	38.0%
前期高齢者比率	7.5%	8.3%	8.8%	9.4%	11.3%	14.9%	17.5%	16.1%	15.0%	15.4%
後期高齢者比率	4.9%	5.4%	6.4%	8.0%	9.9%	10.7%	12.9%	17.3%	20.9%	22.5%

平成22年までは、国勢調査人口

平成27年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』（平成20年12月推計）(H17国勢調査から推計)



(2) 吉見町の実施

(ア) 実施の概要

高齢化社会が進んでいるなかで、心身ともに健康で快適な生活を送るために健康な歯を保持することは重要であり、国や県でも 8020 運動を推進している。生涯健康な歯を保持するための基礎である乳幼児期の歯の状態が大切であることから、まずは乳幼児の歯の健康に焦点を絞り、住民参加型のモデル事業を展開していくことにした。乳幼児の歯の健康から、将来的に地域住民全体の歯の健康につなげていきたいと考える。

(イ) 実施の契機

平成 16 年度の吉見町の 3 歳児の 1 人平均う歯数は 2.25 本で、埼玉県の平均 1.19 本を大きく下回る悪い成績だった。そこで、平成 17 年より、埼玉県、埼玉県歯科医師会、比企郡市歯科医師会などのご協力をいただき、住民参加型の乳幼児むし歯予防事業に取り組むことにした。

(ウ) 実施の内容 (平成 17 年から 3 年間のモデル事業)

- 事前調査 (3 歳児の保護者に『子どものお口の健康づくりのためのアンケート』) の実施 → 歯科保健行動の問題点の抽出
- 地域住民、埼玉県、歯科医師・歯科衛生士等の歯科保健関係者、行政職員からなる協議会の設置 (年 5 回開催)



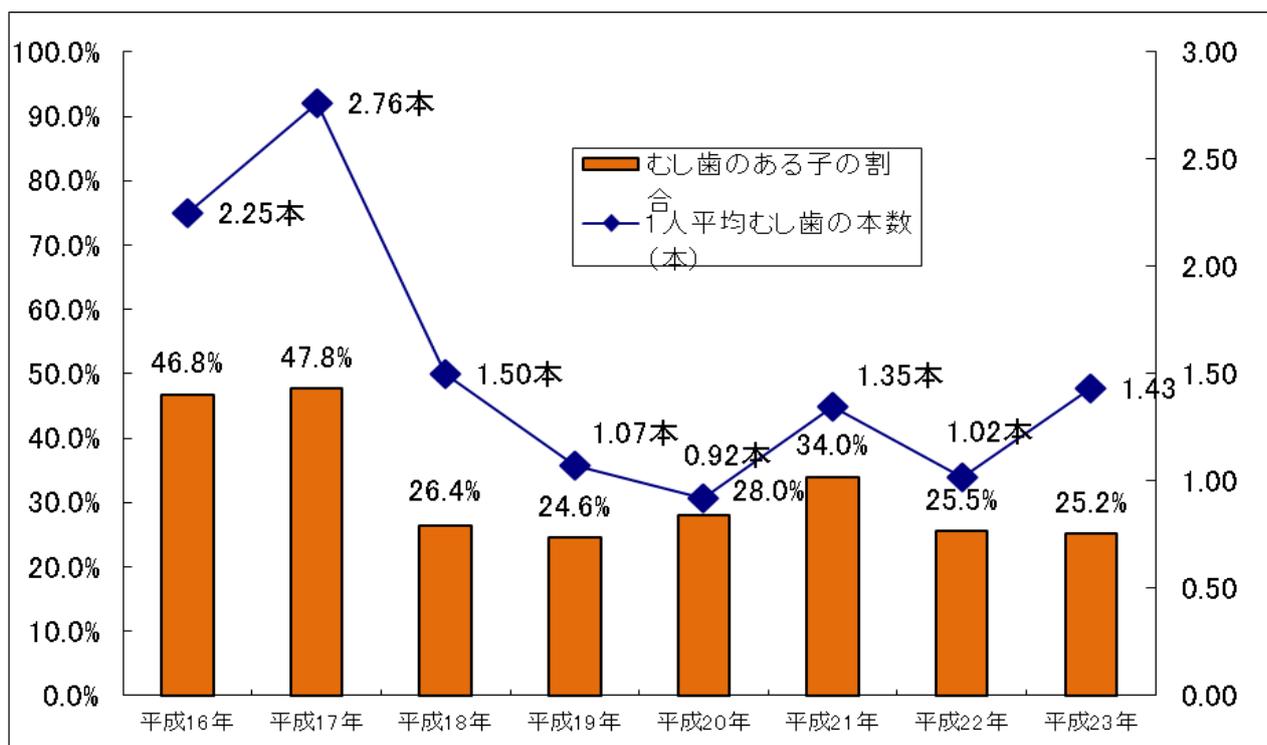
- ①問題の共有化（調査結果、歯科保健に関する情報の提供）
- ②住民による目標値の設定（目的の共有化）→3歳児1人平均う歯数を2.25本から3年後0.8本に
- ③住民による問題行動の抽出と優先順位の決定
- ④住民による目標達成のアクションプランの作成
- ⑤計画（目標値、アクションプラン）の町民への公表
→実際の活動内容・活動のPRポスターの作成
 - ・広報誌に『〇8の会』の記事を掲載
 - ・吉見まつりに『〇8の会』のコーナーを設置
 - ・保健センターでフッ素塗布開始（1歳～3歳児）
 - ・町内の保育園、幼稚園でフッ化物洗口開始
 - ・町立の小学校、中学校でフッ化物洗口開始
 - ・むし歯予防イベントの開催
 - ・3世代お口の健康まつり開催
 - ・むし歯予防啓発冊子の作成、配布



(エ) 取組の効果

住民が中心となった、様々なむし歯予防啓発活動や、平成18年度から開始したフッ素塗布などにより3歳児のう歯は、活動開始前に比べて減少してきたが、当初の目標だった3歳児1人平均う歯数0.8本は未だ達成することができていない。

3年間のモデル事業として始まったこの取組だったが、今後も目標達成のために活動を継続していきたいという住民の声があがり、その後も住民が主体となり、乳幼児から地域住民全体に向けての活動が展開されている。



(オ) 成功の要因、創意工夫した点

- ①当事者である住民の声から生まれたフッ素塗布の実現により、住民の心に『やればできる』という前向きな姿勢が生まれ、住民と歯科医師会、行政などが1つの目標に向け連携できたこと。
- ②活動していく上で計画の立案や実施に関して、その当事者の意見が反映されるよう、住民参加型の事業であり、自分たちの身近な地域の問題を住民たち自らが認識、共有し、自分たちができることは何か、この町では何ができるのか具体的なアイデアを出し合い、実践できたこと。

(カ) 課題、今後の取組

- ①活動を支える住民の確保。
- ②住民の熱意をいかに継続させ、その声に行政がいかに対応できるか。
- ③3世代お口の健康まつりのような、乳幼児だけではなく、乳幼児以降の全ての住民を対象にしたお口の健康への取組を充実させていきたい。
- ④お口の健康に対する知識啓発を今後も継続していきたい。